地学協働

北海道の地域と学校の連携・協働を応援する広報誌　No. 48

TOPIC
1. 地域学校協働活動推進員の取組
2. 第２回放課後活動推進協議会【道央会場】開催報告
3. 第２回放課後活動推進協議会【道北会場】開催報告
4. 子どもの読書活動推進コーナー



9月

1 道教委が委嘱する地域学校協働活動推進員の取組

文部科学省では、高校コーディネーターの標準的な職務を右図のように整理しています。
北海道ＭＡ＋ＣＨプロジェクトの地域学校協働活動推進員（呼称：地学協働コーディネーター）は、学校と地域の思いをつなぎ、地学協働体制の構築に寄与しています。

※補完職務
他の専門職との適切な連携・分担の下、その専門性を活かして参画することが想定される職務

学校と地域・社会をつなぐ高校コーディネーター
スタートガイドブック（令和７年３月）文部科学省→→

領　域	専門職務/補完職務	職務内容
教育・探究に関するコーディネート	専門職務	Ⓐ 社会に開かれた教育課程における外部機関等との連携・協働
		Ⓑ 学校外の学習環境、活動機会への接続
	補完職務※	社会に開かれた教育課程におけるカリキュラム・マネジメント、推進支援、企画立案・運営支援、生徒伴走支援
		学校外の学習環境、活動機会の開発支援
経営・協働に関するコーディネート	専門職務	Ⓒ 地域や社会の外部機関等との協働体制の構築と運営
		Ⓓ 外部機関や人材との連携、教育資源（人材・資金等）の確保
	補完職務※	学校の特色化・魅力化に関わる情報発信・共有支援

地域学校協働活動推進員（地学協働コーディネーター）の役割　【実践事例】

Ⓐ 社会に開かれた教育課程における外部機関等との連携・協働

・地域住民等による探究サポーターを募集し、職業や専門分野を一覧にまとめている。

・総合的な探究の時間の先生から、地域の公共施設で発表会を実施したいという意向を聞き、先回りして会場予約や調整を行った。

・先生や生徒も探究活動の見通しを立てやすくするために、年度初めに地域行事等の年間予定を調べ、データ化して共有している。

Ⓑ 学校外の学習環境、活動機会への接続

・小学校のＰＴＡ総会時に、高校生が小学生を見守る活動を復活させたいという地域の要望を、高校や町教委と調整することで、高校生の地域ボランティア活動として実現させた。
※当該地域学校協働活動推進員は学校運営協議会の委員を兼任

・総合的な探究活動の時間の取組を課外活動の場として発展させた「放課後探究部」の立ち上げに関わり、地域の公民館事業と連携し、地域の課題の解決へ向けた取組が進んでいる。

Ⓒ 地域や社会の外部機関等との協働体制の構築と運営

・コンソーシアムメンバーを選定し、委員になっていただくよう依頼した。また、委員の人事異動の際には後任者の選定に気を配った。

・コンソーシアム会議で、グループワークを進行するなど会議の運営に関わっている。

・学校運営協議会の仕組みを活用して、地域の協力者を生徒の学習にマッチングさせる「ＣＳプラットフォーム」を創設した。

Ⓓ 外部機関や人材との連携、教育資源（人材・資金等）の確保

・地域協力者のリストを作成している。

・生徒から、クラウドファンディングに挑戦したいという相談を受けた際に、自らの経験を踏まえサポートを行った。

・生徒会が、学校祭花火大会の復活に向け、地域住民へプレゼンや募金活動ができる場が持てるように調整を行った。



2 【道央会場】第２回放課後活動推進協議会（演習編） 開催報告

開催日：令和８年（2026年）７月８日（水）　　主　管：空知教育局
開催地：岩見沢市生涯学習センター「いわなび」　　参加者：39名

岩見沢市生涯学習センター「いわなび」を会場に、放課後児童支援員や地域学校協働活動推進員、行政職員など、放課後活動を支える方々を対象とした協議会を開催しました。本協議会では、「バルシューレ」「ボードゲーム」「トリコロキューブ」の３つの演習から２種目を選択して受講する形式とし、参加者は演習を通して子どもへの関わり方や活動づくりについて学ぶとともに、情報交流を通して各地域の実践や課題を共有しました。

１　演習・講師

Ａ「バルシューレ」	一般社団法人SLDI代表	辻　本　智　也　氏
Ｂ「ボードゲーム」	「いっしょにBoard Game」代表	西　川　　潤　氏
Ｃ「トリコロキューブ」	一般財団法人北海道子どもの国協会参事	坂　本　征　人　氏

○　演習Ａ「バルシューレ」

本演習では、日本で初めてバルシューレ指導者Ａ級ライセンスを取得した辻本氏を講師に迎え、「投げる・蹴る・打つ」の動きが含まれた多様な運動をとおして、子どもの基礎的な運動能力や協調性を育てるバルシューレの実技演習を行いました。

参加者は、ボールを用いた運動プログラムや、室内の限られたスペースでも取り組むことができるプログラムを体験し、子どもたちへの接し方や、指導のポイントについて学びました。

参加者からは、「運動が苦手で悩んでいる子どもたちにすぐに実践したい」と、学んだ内容を現場で生かしたいという意欲的な声が聞かれました。


スカーフを使用した運動プログラム

○　演習Ｂ「ボードゲーム」

講師の西川氏は、小学校で勤務する傍ら、「市民が気軽に交流できる場をつくりたい」という思いから、平成30年に「いっしょにBoard Game」を設立し、ボードゲームを通じたワークショップを開催するなど、学びの場づくりに取り組まれています。

演習では、子どもの思考力やコミュニケーション能力の育成に効果的な教育現場向けのボードゲームの紹介がされ、参加者は実際に体験しながら、活動に取り入れる際の工夫や指導のポイントについて理解を深めました。

演習後には「子どもたちの勝ち負けへのこだわりが強く、遊びの幅が広がらずに悩んでいたため、とても参考になりました」と感想が寄せられ、日頃の課題解決につながる学びの時間となりました。


ボードゲームに熱が入る参加者達

○　演習Ｃ「トリコロキューブ」

講師の坂本氏の所属する一般財団法人北海道子どもの国協会は、北海道立青少年体験活動支援施設ネイパル砂川の指定管理者です。

演習では、ネイパル砂川で人気のニュースポーツ「トリコロキューブ」を体験し、誰もが参加しやすく、協働的に楽しめる活動づくりについて学びました。

参加者は、協議を楽しみながら放課後活動や地域活動におけるニュースポーツの活用方法や理解を深めることができました。

アンケートでは、「ニュースポーツについてもっと知りたくなったので、来年もぜひ実施してほしい」と、さらに学びを深めたいという声も寄せられました。


全員で勝敗の確認場面

２　情報交流・進行者

演習Ａ会場	空知教育局教育支援課社会教育指導班社会教育主事	川　﨑　裕　也
演習Ｂ会場	後志教育局教育支援課社会教育指導班主査	小　島　雄　介
演習Ｃ会場	生涯学習推進局社会教育課ネイパル砂川グループ社会教育主事	斉　藤　　萌

情報交流では、演習での学びや気付きを共有できるよう、各演習会場で３～４名の少人数グループによる交流を行いました。各グループでは、「言葉づかい」「特別な支援を必要とする子どもへの関わり方」「学校との連携」「指導者不足」などをテーマに活発な意見交換が行われ、それぞれの地域における実践や課題を共有しました。全体発表では、市町村や管内を越えて交流できたことへの満足感や、「来年度もこのような演習形式の研修会を開催してほしい」といった声が多く寄せられ、参加者同士のつながりを深める機会となりました。


熱心な交流の様子

参加者の感想	
	○　子どもと同じ立場や目線になって行う演習がとても新鮮でした。 ○　実践につながる研修会で、良い機会となりました。

【道北会場】第２回放課後活動推進協議会（演習編） 開催報告

開催日：令和８年（2026年）７月15日（水）主　管：宗谷教育局
開催地：稚内市東地区活動拠点センター　　参加者：21名

放課後や休日などにおける子どもの活動拠点づくりに関わる方々を対象に、子どもへの活動支援の在り方を含めた専門的な講義や演習等を行い、放課後活動を支える人材の資質向上を図るため、稚内市東地区活動拠点センターを会場に、地域学校協働活動を行っている方（地域コーディネーター、放課後児童支援員、児童厚生員、保育士、行政職員）が参集し、協議会を行いました。

1　情報交流　「日常の取組における現状と課題」
進　　行　宗谷教育局教育支援課社会教育指導班主査　蛯　名　祐　介

じゃんけんゲームによるアイスブレイクの後、５～６人のグループに分かれ、それぞれの日常の活動について交流を行いました。
職場や職種が異なる組合せになるようグループを編成し、「自身の所属の子どもたちの間で今流行していること」の交流を皮切りに、活動環境や、子どもたちの様子、日頃感じる課題などについて話し合い、活発な意見交流が行われました。
【参加者の意見】
○ それぞれのクラブ・教室によって環境に大きな違いがあり、驚いた。
○ 自分のまちでも取り入れてみたい活動があり、とても参考になった。


交流の様子

2　演習①　「室内遊びに新たな風を！ボードゲームの世界～交流と思考を体験しよう～」
講師：学校法人北辰学堂育英館大学講師　松　坂　公　暉　氏

最古のボードゲームや世界的なゲームイベント・賞の紹介、「対戦型」や「協力型」があることなど、ボードゲームの奥深い世界について理解を深めるとともに、その教育的効果について学びを深めました。実際にいくつかのゲームを体験し、「このルールは公平でよい」「これは学年に関係なく楽しめる」「細かい道具の管理が大変そう」など、実際に活用する場面を想像しながら楽しみました。


演習①　ボードゲームを体験する参加者

演習②　「運動遊びに新たなバリエーションを！アクティブチャイルドプログラムを生かした運動遊び」　　講師：一般財団法人稚内市スポーツ協会　三　上　雅　人　氏

放課後活動における運動の場では、子どもの発達段階や個人差を踏まえ、多様な動きを楽しみながら経験できる環境づくりや、十分な運動量の確保が重要なことを確認しました。指導日誌を活用した指導者間の情報共有や計画的な指導、肯定的な声かけの重要性、異年齢交流や対話を通して主体性や社会性を育むことなど、ACPの考え方を生かした子どもとの関わり方について学びを深めました。


演習②　ACPについて理解を深める参加者

演習③　「子どもとの関わりに新たな視点を！多様な特性をもった子どもへの効果的なアプローチ」　　講師：稚内市立稚内南小学校教諭　高　桑　政　人　氏

発達障害や愛着障害の特性について理解を深めるとともに、「困った行動」を子どもからのＳＯＳとして捉え、その背景にある要因を理解することの重要性について学びました。また、環境の構造化や視覚的支援、具体的で肯定的な言葉かけ、感情の代弁など、一人一人の特性に応じた支援方法や、職員間・関係機関との連携による一貫した支援の必要性について理解を深めました。


演習③　ワークショップを行う参加者

※参加者は３つの演習の中から２つを選択して受講。

参加者の感想

○ 子どもの気持ちになり理解してあげること、ほめるところを探すことの大切さを感じました。今後の子どもとの向き合い方の参考になりました。
○ 児童の暴言等をどこまで受けとめるべきか悩んでいました。会場の支援員さんの対応や話を聞き勉強になりました。

○●○子どもの読書活動推進コーナー○●○

社会教育課では、地学協働の推進とともに、子どもの読書活動の推進に関することについても取り組んでいます。今号は、道内の２管内から、学校図書館の好事例を紹介します。

【日高管内】 社会との接点になる学校図書館（新ひだか町）



学校司書の幅広い支援【町立高静小学校】

新ひだか町では、10年前から２人の学校司書が町内６つの小・中学校を巡回して、学校図書館の運営を支援しています。

高静小学校では、取材当日の休み時間に、たくさんの児童が委員会活動や、本を借りるために来室していました。学校司書の巡回時には、カウンター業務を手伝いたい児童が何人も集まり、学校司書は業務を教えるとともに、児童や先生からの要望に応じて本を提供するなど、幅広く支援しています。

新たな本との出会いを促す仕掛け【町立静内小学校】

静内小学校では、学校司書が季節に応じて様々なジャンルの本を集めた特集コーナーを設けて、児童がそれまで触れたことのない本と出会えるように促しています。

また、入口付近には「図書館ポスト」を設置し、購入してほしい本を児童や先生がリクエストできる環境を整えています。学校司書がリクエストを参考に選書する仕組みができており、読書を通して子どもたちの世界を広げる試みが続けられています。



【根室管内】 学校と家庭、地域で取り組む読書活動の推進（標津町立標津小学校）



標津小学校PTA「図書プロジェクト」

標津小学校では、学校と家庭、地域のボランティアによる多彩な取組が子どもたちの豊かな読書活動を支えています。

標津小学校PTAでは、子どもの健全育成を目的とした様々なプロジェクト活動を展開しています。子どもの読書活動の推進に取り組む「図書プロジェクト」では、保護者の有志が、本のPOPづくりによる読書環境の充実や保護者アンケート等に取り組み、子どもが本を手に取りやすい環境づくりに努めています。

よむよむ☆ママさん隊「朝の読み聞かせ会」

よむよむ☆ママさん隊は、標津小・中学校で読み聞かせ会を実施するボランティアサークルです。標津ならではの、地域のお祭りの由来や防災に関するオリジナル紙芝居の制作も行うなど、子どもの生活と関連させた読み聞かせを心がけています。

また、標津小の中央玄関に設置する「おすすめの本コーナー」は、子どもたちが様々な本と出会い、読書への関心を高める場になっています。





題字の背景写真は、「北海道公式観光サイト『HOKKAIDO LOVE！』」（公益社団法人 北海道観光機構）のフォトライブラリーから御提供いただいております。

● 掲載サイト　https://www.visit-hokkaido.jp/